

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	紋枯病（注意報第4号継続） トビイロウンカ	多 やや少	多 並
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや少 やや少	並 並
いちご	うどんこ病 炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ） ハダニ類	やや少 並 並	やや少 並 やや多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病、斑点病） アザミウマ類	並 やや多	並 やや多
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ	並 少 少	やや多 やや少 少
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 並 並 並 並 並 少	並 並 並 並 並 並 少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

令和4年8月30日付け、**病虫害発生予察注意報第4号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 9月前期の巡回調査(86筆)の結果、発病株率は10.7% (3.1%)、発生圃場率は70.9% (34.9%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は80.0% (44.9%)であった。

2. トビイロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(86筆)の結果、株当たり虫数は0.1頭(0.7頭)、発生圃場率は36.0%(60.3%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.6頭(2.2頭)、寄生株率は27.0%(33.6%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降の防除実施後もその後の発生状況に十分注意し、9月中旬に成虫・老齡幼

虫を株当たり5頭以上認めた場合には早急に防除する。

イ 防除に当たっては、本虫の発生量は圃場間や同一圃場内でも偏りがあるので、圃場の見回りを徹底して、圃場全体の発生状況の把握に努める。

ウ 本虫は株元に好んで寄生するので、農薬散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。

エ 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を遵守する。また、周辺環境を十分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は2.7%(9.1%)、株当たり虫数は0.0頭(0.5頭)、白変葉発生圃場率は20.0%(47.5%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(寄生株率5.3%、株当たり虫数0.1頭)。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

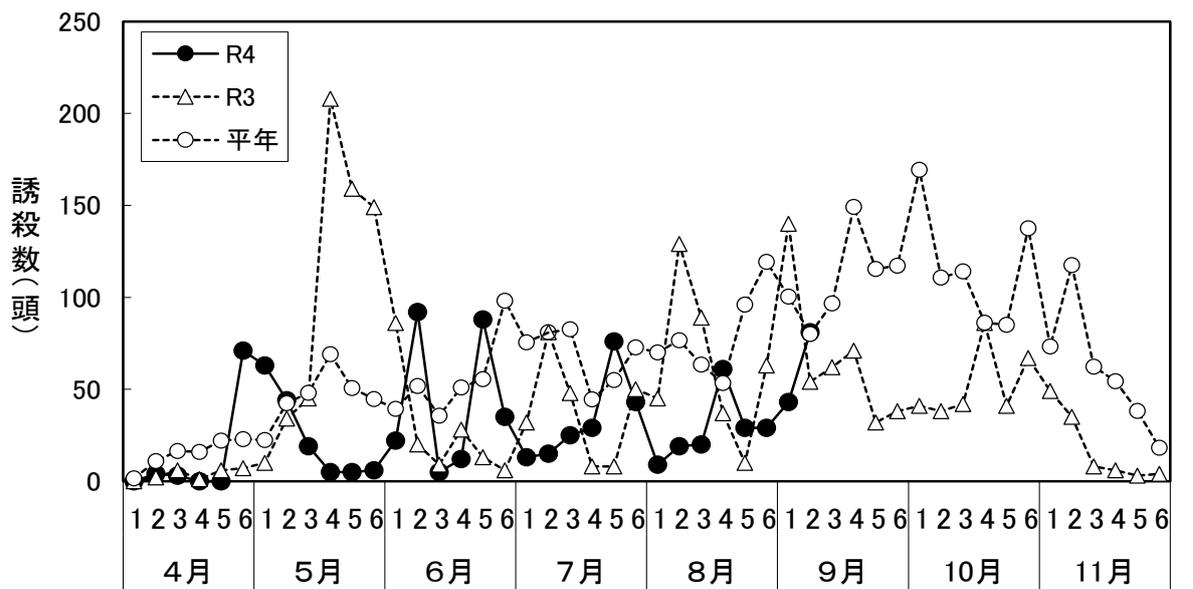


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は0.4%(0.5%)、株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は13.3%(13.3%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（寄生株率3.4%、株当たり虫数0.1頭）。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 稚莢期から莢肥大期にかけて薬剤散布を行う。また、薬剤は着莢部によくかかるよう、丁寧に散布する。

イ ミナミアオカメムシに対しては一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（28筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.8%）。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（28筆）の結果、発病株率は0.0%（0.4%）、発生圃場率は10.7%（15.5%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の発生に好適である。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（28筆）の結果、寄生株率は4.0%（4.7%）、発生圃場率は35.7%（38.2%）であった（図）。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

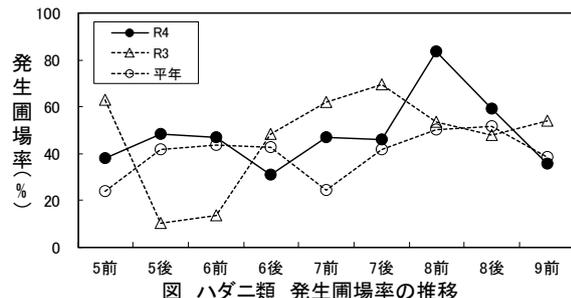
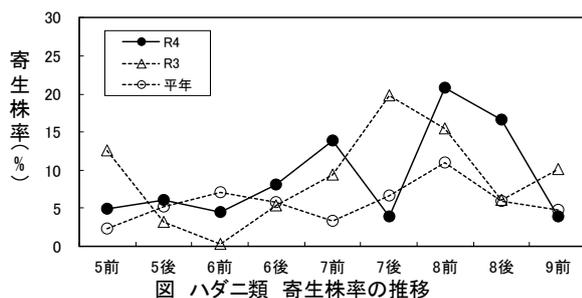
ア 本圃でハダニが多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないよう定植前までに防除を徹底する。

イ ハダニ類は下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準P216～

219の「作用機構による分類 (IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。また、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤を積極的に活用するが、卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。

エ 天敵を用いる圃場では薬剤の選定や使用時期に留意し、天敵に影響の小さい薬剤を使用する。



アスパラガス

1. 斑点性病害

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病側枝率は17.9%（12.7%）、発生圃場率は50.0%（71.1%）で、一部多発圃場が見られた。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 種実をつけた老茎や黄変しかかったものを除去して株内の風通しをよくする。なお、除去した罹病茎葉は圃場外に搬出し、地中深くに埋めるなど適切に処理する。
- イ 降雨後は多発しやすいので出来る限り早めに追加防除を行い、薬剤散布の際はかけむらがないよう十分量を丁寧に散布する。

2. アザミウマ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所）は27.8頭（8.7頭）、発生圃場率は50.0%（53.5%）で一部多発圃場が見られた（図）。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P284～285の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

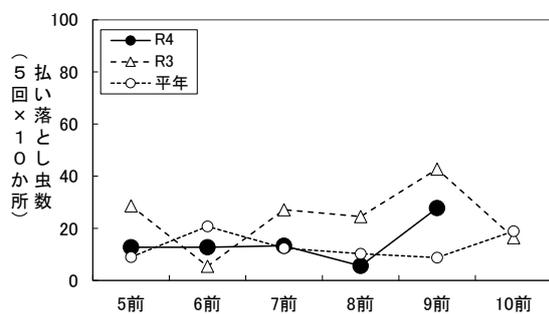


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

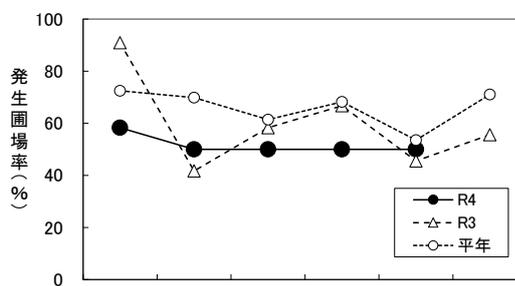


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.3%（0.3%）、葉での発生圃場率は22.2%（13.5%）、発病果率は0.3%（0.2%）、果実での発生圃場率は16.7%（8.3%）で、一部多発圃場が見られた。

イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布にあたっては収穫期に近い品種では使用時期を確認し、使用基準を遵守する。
- イ 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、台風が予想される場合は台風接近前に薬剤散布を行う。

2. 黒点病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率は1.1%（6.1%）、発生圃場率は16.7%（36.5%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては収穫期に近い品種では使用時期を確認し、使用基準を遵守する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は1.4%（3.8%）、発生圃場率は13.9%（32.6%）であった。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの1枝当たりの寄生虫数は2.1頭（2.2頭）で平年並であった（表）。

イ フェロモントラップによる誘殺数は平年並～やや少なくて推移している（図）。

ウ ヒノキきゅう果の口針鞘数調査結果から、すでにヒノキからの離脱を開始していると思われる（令和4年8月5日付け発生予察技術情報第2号参照）。

表 ヒノキ樹（きゅう果着生枝）における果樹カメムシ類の寄生状況

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	
令和4年	1.5	0.1	0.1	0.1	1.8	0.2	0	0	0	0.3	2.1
平年	1.2	0.2	0.3	0.2	1.9	0.3	0	0	0	0.3	2.2

* 令和4年8月22、23日にヒノキきゅう果結実枝のビーティング調査を実施

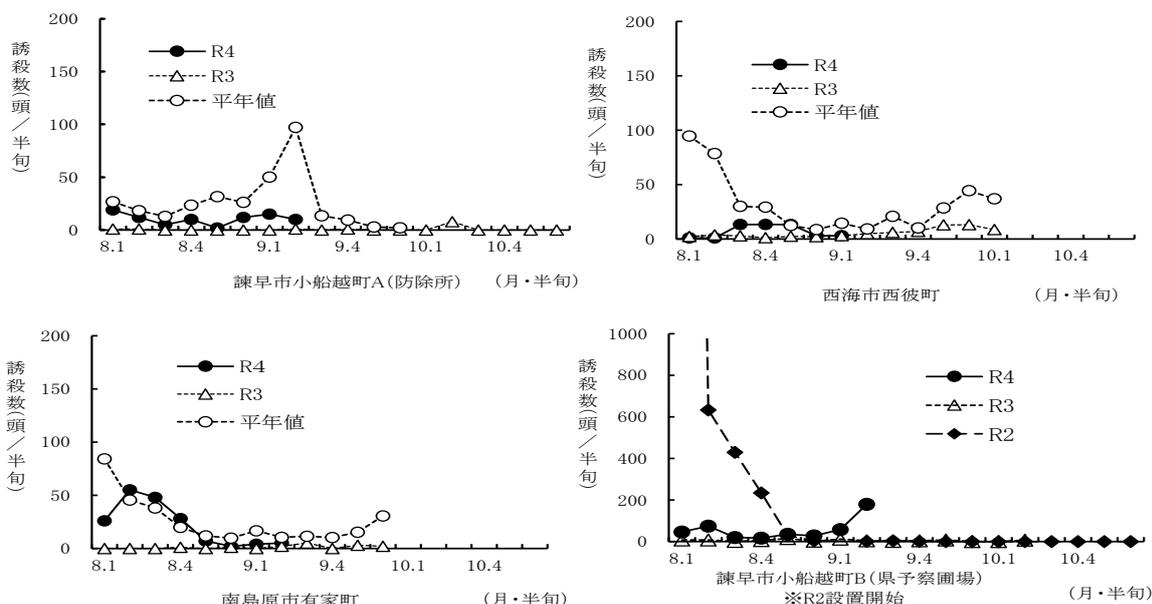


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況（黄色コガネコール）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来量や飛来時期は園地により異なる場合があるので、果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。とくに山林に近い園地や毎年発生が認められる園地では注意する。

イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布にあたっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は1.7枚（4.5枚）、発生圃場率は47.4%（66.3%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P428～429の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は10.1頭（10.4頭）、発生圃場率は78.9%（87.8%）であった。

3. チャノココカクモンハマキ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.2枚（0.1枚）、発生圃場率は10.5%（10.8%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年並～やや多で推移している（図）。

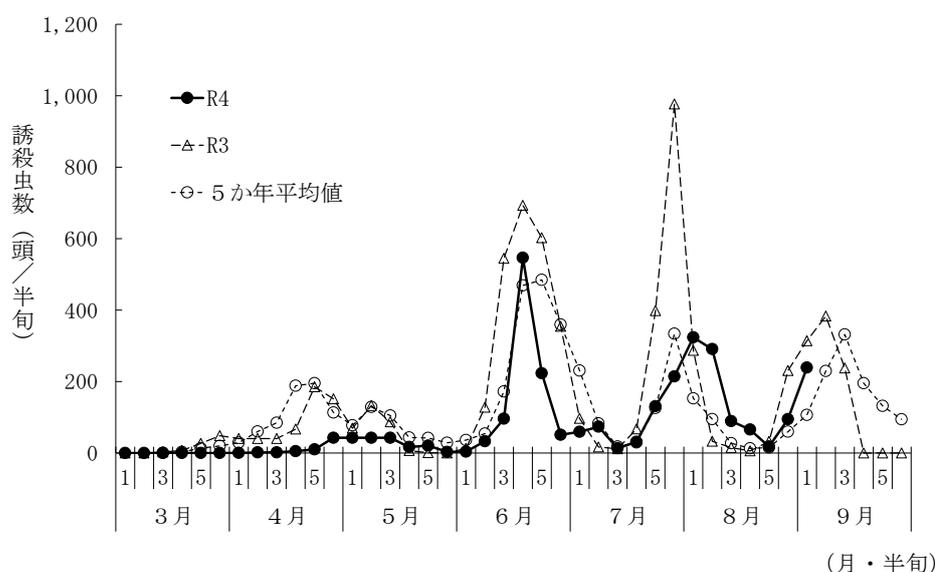


図 チャノココカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期の目安は、昆虫成長制御剤（IGR剤）は発蛾最盛期のころ、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7日後である。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡あたり巻葉数0.1枚、発生圃場率5.1%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年よりやや多く推移している（図）。

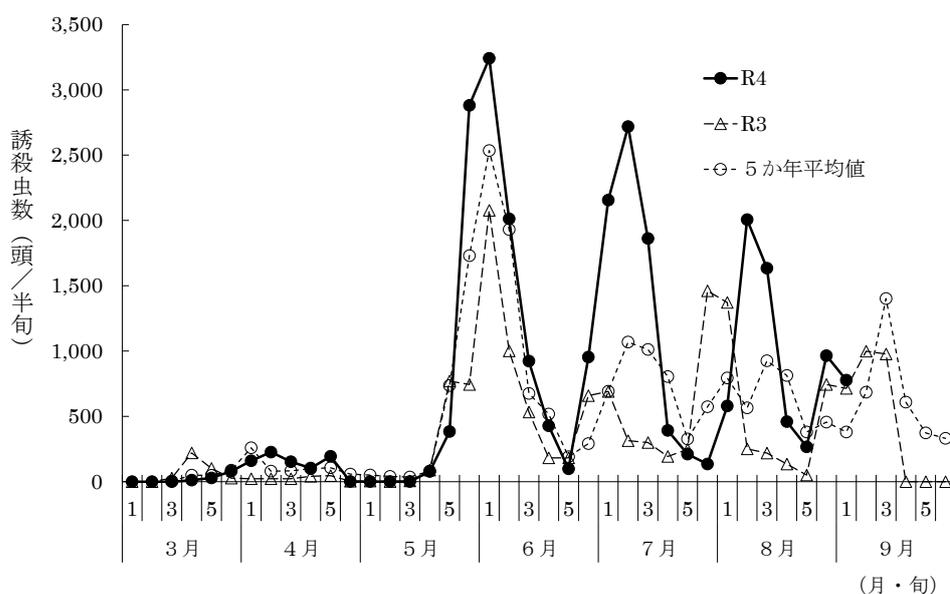


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は0.5%（0.8%）、発生圃場率は10.5%（14.7%）であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は2.0頭（1.6頭）、発生圃場率は57.9%（48.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

7. クロシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率1.6%、発生圃場率15.0%）。

【参考】

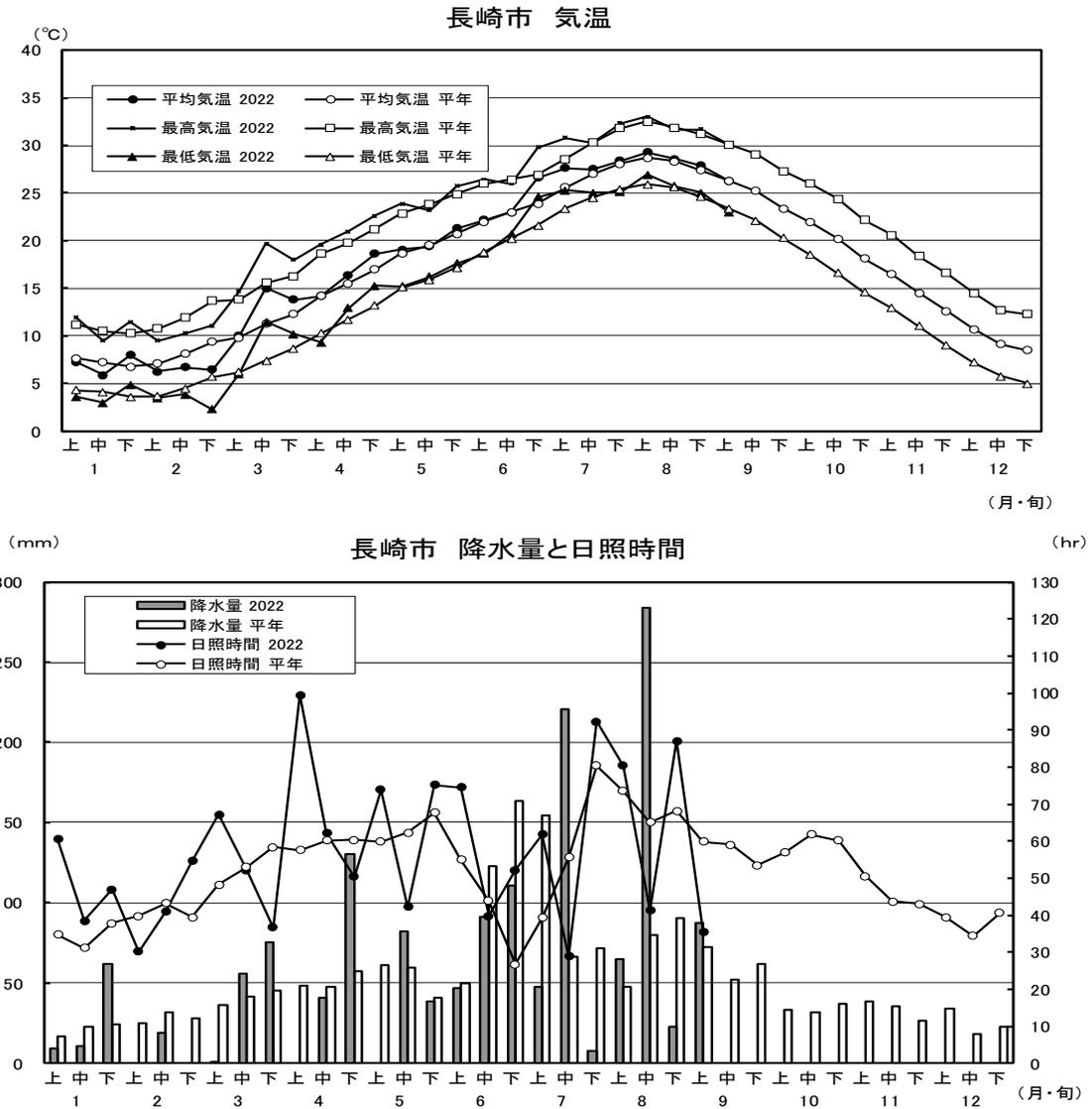
(令和4年9月8日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和4年の気象経過 (長崎地方气象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

